

繪 本

敵の手に傷つけられた

瀕死の母親にみせよその子の冷たさ

左の格子窓から一筋の夕日か

負傷者収容所の冷たい床に落ちたこと

火ぶくれを親のうえにひらけ持

ゆつくりと繰るやよ未やま月う幼い冷

古いまじみうお伽はなし

カチカチ山の狸ウヤケに眼をむけた

隣り男ウ呻きもいつか絶え

ほんやりと凝視めつた母親ウ眼に

もろとおい眼か垂れ

苦痛も恨みも

子につながらる希いさえ訴えぬまま

妻尻のシミウキはに

死んでゆく

しんでゆく